

木造設計アドバイザー制度

【木造設計アドバイザー制度の目的】

平成 22 年 10 月に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行され、本県でも「熊本県公共施設・公共工事木材利用推進基本方針」を平成 23 年 2 月に策定し、木材利用の促進に努めているところですが、公共建築物の場合は、大規模となる可能性が高く、単年度会計といった民間事業とは異なる工期制約を受けることから、施工時に材料の手配などをスムーズに進める必要がある中で、木材の生産、加工・流通状態などを十分把握したうえで設計を進めるには、木材の専門家が設計にかかわる必要性があります。

そこで、県内の地方公共団体が発注する木造建築物の設計に対し、県内の木材流通などの実態を踏まえたうえで、さらに質の高い木造公共建築物の整備が推進されることを目的として、熊本県と(一財)熊本県建築住宅センターと協働で、専門性の高いアドバイザーを派遣する【木造設計アドバイザー制度】を平成 24 年度に創設しました。

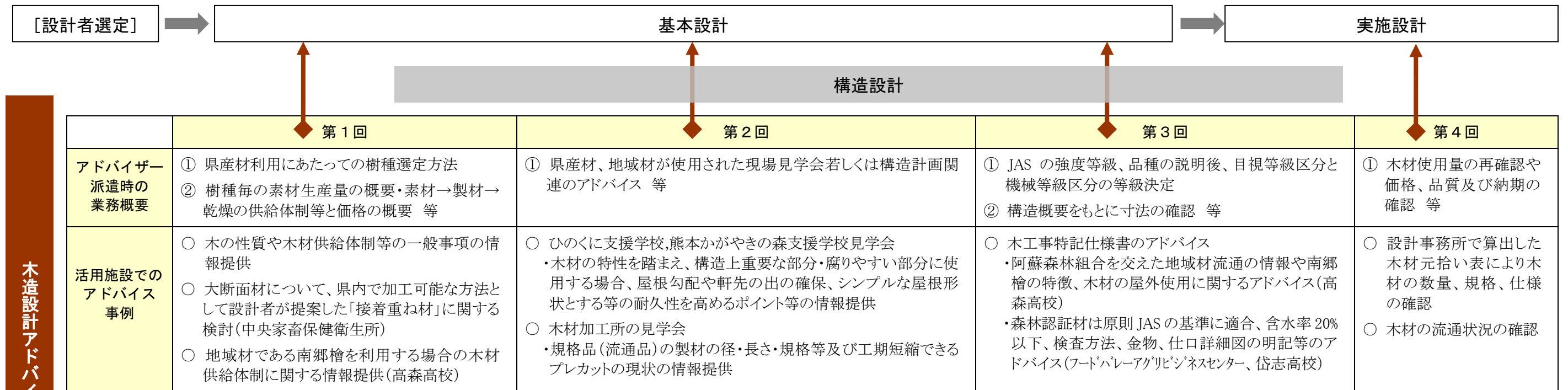
【本制度の活用施設】



【フードバレーアグリビジネスセンター】

所在地	: 八代市鏡町
構造・階数	: [オフィス棟] 木造・2階 [研究棟] 木造・平屋
延べ面積	: 1,134.02 m ²
設計・監理	: 風+丸岡共同企業体 (建築)
使用木材数量	: 379.3 m ³ (杉 365.5 m ³ 、桧 13.8 m ³)

【木造設計アドバイザー派遣時の業務内容】



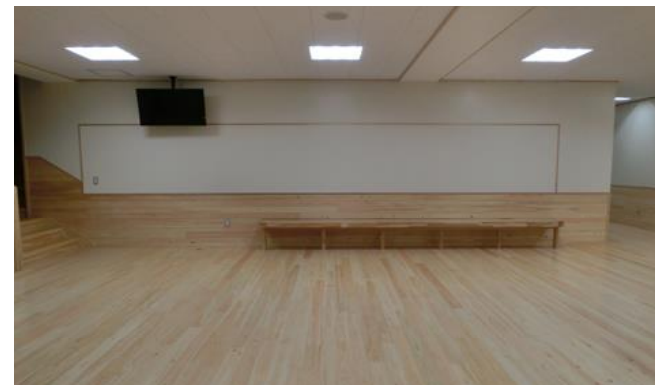
木造設計アドバイザー事業



(アドバイザーとのワークショップの様子)



(木材加工所の見学会)

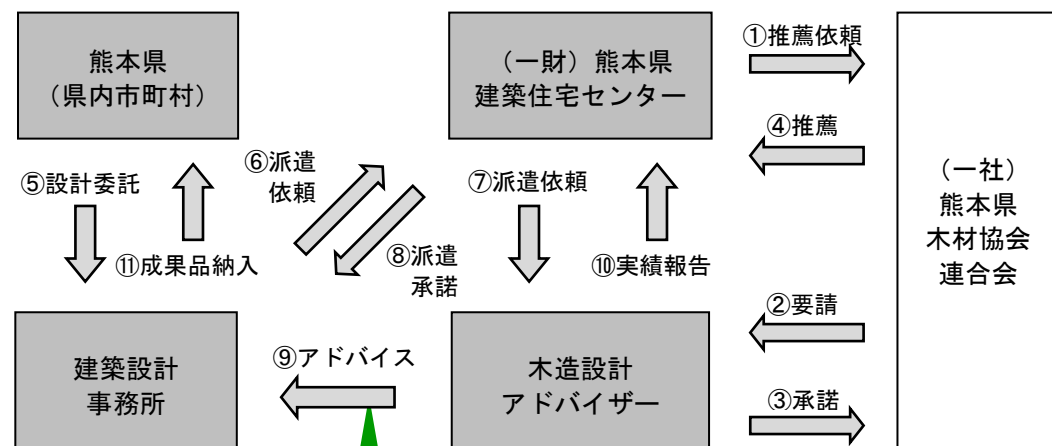


(南郷檜を使用した玄関ホール [県立高森高等学校 教室棟])



(県立熊本かがやきの森支援学校の見学会)

【木造設計アドバイザー制度の体系】



本制度を活用することで、伐採から素材調達までのスケジュールを事前に確認でき、スムーズな材料調達が可能となります。

【木造設計アドバイザー活用実績】

(H25年度) 2件

- 中央家畜保健衛生所(熊本市) 木造一部RC造 平屋 1,703.98㎡ H27.2 竣工
- 県立高森高等学校 教室棟(阿蘇郡高森町) 木造一部RC・S造 1,197.61㎡ H27.11 竣工

(H26年度) 2件

- フードバレーアグリビジネスセンター(八代市) 木造 2階 1,134.02㎡ H27.3 竣工
- 県立岱志高等学校 工芸実習棟(荒尾市) 木造 平屋 382.31㎡ H27.3 竣工

(H27年度) 2件

- 総合防災航空センター(菊陽町) 木造一部RC造 平屋 1,908.55㎡ H28.3 実施設計終了
- 城北家畜保健衛生所(山鹿市) 木造一部RC造 平屋 1,028.26㎡ H28.3 実施設計終了

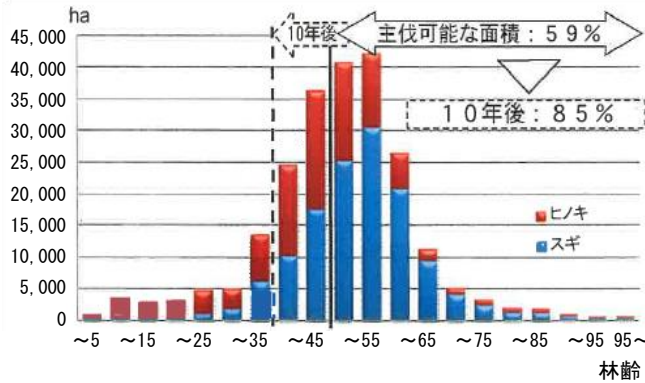


[中央家畜保健衛生所]



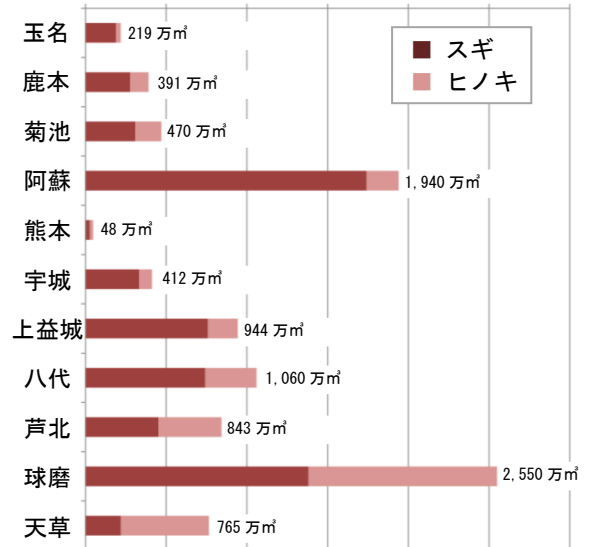
[県立岱志高等学校 工芸実習棟]

熊本県内の民有林スギ・ヒノキ人工林の齢級構成と地域別の蓄積量



(図-1 県内の民有林スギ・ヒノキ人工林の齢級構成)

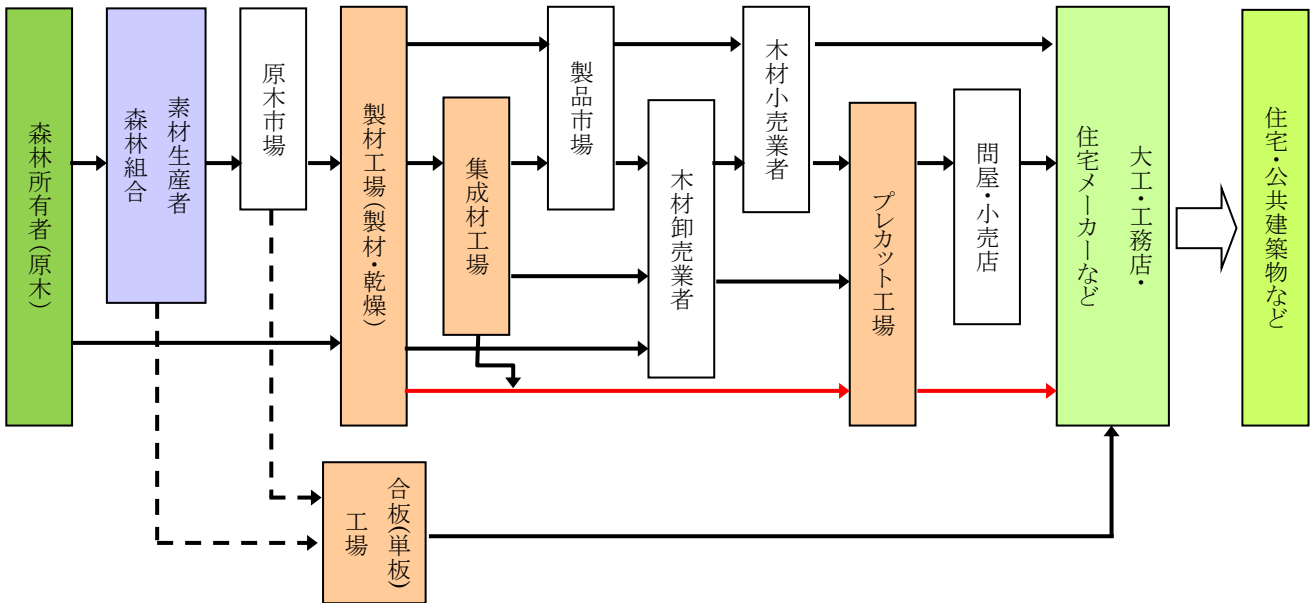
県内の民有林のスギ・ヒノキの森林面積は、H26 年度時点です約 23 万 ha です。この内、樹齢 46 年生以上の主伐可能な森林面積は 13 万 ha 以上で、スギ・ヒノキ人工林の 59% になっています。10 年後には 85% になる見込みで、約 1.5 倍になります。右のグラフは県内の圏域ごとのスギ・ヒノキの蓄積量を示したものです。



(図-2 地域別民有林スギ・ヒノキの蓄積量)

出典：熊本県林業統計要覧（平成 25 年度版）
：木造設計アドバイザー派遣時資料

一般的な木材の流通経路



木材は、一般に上記のような流通経路を経て供給されます。製材工場では、製材後、乾燥、仕上げ挽き等の工程を経て製品材になりますので、建物の規模が大きくなると木材の調達に長時間を要することとなります。

このため、大規模木造施設を建設する際は、計画段階からの木材の調達(調達先、時期、方法等)について検討する必要があります。

なお、最近では、原木市場、製品市場、木材卸売業者等を経ずに、製材工場やプレカット工場から工務店等（建設現場、加工場）に直接製品が納入される場合（図中の赤矢印）も多く見られます。

木造設計アドバイザー制度に関する

お問い合わせ先

- 一般財団法人熊本県建築住宅センター TEL：(096) 385-0771 FAX：(096) 285-6966
- 熊本県土木部建築住宅局営繕課 TEL：(096) 333-2539 FAX：(096) 381-7612